



埼玉県のマスコット  
コバトン



# 平成20年産麦類の作柄概況について

農林総合研究センター 水田農業研究所 米・麦担当

## 1. 気象概況

**気温：**11月は月前半が高く、後半は低かった。12月～1月上旬は高温であった。2月は平年よりやや低かった。3月～4月は高温で、特に3月は記録的な高温となった。5月、6月とも、上旬が高く、中旬は低かった。

**降水量：**11月12日～12月11日まで1ヶ月間降雨がないなど、11月～12月中旬にかけて少なかった。12月は下旬にまとまった降雨があり、月降水量は多かった。1月～2月は少なかった。4月は、7日～8日、17日～18日に大雨があり、かなり多く、月合計で平年の2倍に達した。5月は、まとまった雨が3回ほどあり、降水量は多かった。6月は、上中旬がかなり多かった。

**日照時間：**11月～1月は概ね平年並みであった。2月はかなり多く、3月～4月は平年並み。5月～6月上旬にかけては少なく、6月中旬は多かった。

## 2 作柄概況

### (1) 大麦（はるな二条）

ア 水田農研 生育相調査結果

出芽・苗立はやや平年を下回り、その後、低温、乾燥のため、初期生育は平年を下回った。12月下旬から、降雨、高温により分けつが旺盛となり、莖数は平年を大きく上回った。しかし、風乾重は小さく、抑制気味の生育であった。

1月に入って、高温により生育は促進され、草丈、莖数、風乾重とも平年を上回っ

て推移した。

2月の低温により、草丈、風乾重の増加は小さかったが、莖数は多く推移した。

3月に入って非常な高温に見舞われたことから、草丈が急激に伸張し、軟弱な生育となった。莖立ち期は3月4日と平年より4日遅れであったが、出穂期は4月4日と1日早まった。莖数が過剰であったことから、3月中旬から急激に分けつの切り上がりが進んだが、草丈、莖数は平年より多く推移した。

稈長が、平年比115と長く、5月10、11日のまとまった降雨により、倒伏が発生した。

5月中旬に低温があったことから、成熟期はほぼ平年並であった。

収量は、穂数、1穂粒数、千粒重が平年を上回り、多収となった。

外観品質は、概ね平年並であった。

### イ 県内全般

天候に恵まれ、降雨がなかったことから、播種作業は順調に行われ、出芽・苗立は概ね良好だった。

生育は所内同様、2月までは抑制気味に推移していたが莖数は多く、3月に入り、高温と適度な降雨のため、急激に草丈が伸長し、生育量が大きくなったが、軟弱な生育となった。

出穂、成熟期はほぼ平年並であった。

5月のまとまった降雨により、倒伏の発生がみられた。

収量は、穂数が多く、多収が期待された

が、5月の日照が少なかったこともあり、概ね平年並からやや多収であった。

外観品質は、概ね平年並であった。

## (2) 小麦（農林 61 号）

ア 水田農研 生育相調査結果

出芽、苗立ちは良好であった。その後、低温、乾燥のため、初期生育は平年を下回り、年内は抑制気味の生育だった。

1月に入って、高温により、生育は急速に回復し、草丈、風乾重は平年並となり、茎数は平年を大きく上回った。

2月の低温により、草丈、風乾重の増加が少なく、平年を下回ったが、茎数は多く推移した。

3月に入って非常な高温に見舞われたことから、草丈が急激に伸張し、軟弱な生育となった。茎立ち期は3月9日と平年より1日遅れであったが、出穂期は4月18日と1日早まった。茎数が過剰であったことから、3月中旬から急激に分げつの切り上がりが進み、平年より約10日早く、4月中旬にはほぼ最終穂数が決定した。

草丈、茎数、風乾重は平年より多く、生育量は大きく推移した。特に、草丈は過去の生育相データ（施肥変更前を含む）の中で最も高くなった。

このため、5月10、11日および20日のまとまった降雨により、全面倒伏した。

収量は、千粒重が小さかったものの、穂数、1穂粒数は平年を上回り、多収となった。

外観品質は、概ね平年並であった。

## イ 県内全般

天候に恵まれ、降雨がなかったことから、播種作業は順調に行われた。11月前半に播種したほ場の出芽・苗立は概ね良好だったが、後半以降に播種したほ場は、低温、乾燥の影響で出芽が遅れた。

生育は所内同様、2月までは抑制気味に推移していたが茎数は多く、3月に入り、高温と適度な降雨のため、急激に草丈が伸長、生育量が増加した。

4月の大雨により、排水が不完全なほ場では湛水した。

出穂、成熟はほぼ平年並かやや早まった。

5月、6月のまとまった降雨により、各地で倒伏が発生した。

収量は、所内同様、穂数が確保されたため、良好と思われたが、湿害、倒伏によりほ場間、地域間で差が見られ、さらに、登熟期の日照が少なかったことなどから、全体的には平年並からやや多収であった。

外観品質は、概ね良好であった。

## まとめ

本年度の生育に影響を与えた主な要因は、以下のように考えられる。

- ① 11月～2月までの少雨と2月の低温（プラス要因）。  
→草丈の抑制と初期の茎数確保。
- ② 3月の記録的高温（マイナス要因）。  
→急激な草丈の伸長による倒伏の発生。
- ③ 4月以降の度重なるまとまった降雨（マイナス要因）。  
→排水不良畑での湿害。  
→倒伏の助長、収量の低下。

表1 耕種概要（水田農研 生育相調査）

播種様式	条間 (cm)	麦種	品種	播種期(月日)		播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
				本年	平年		元肥	追肥(6~7葉期)
ドリル播	30	二条大麦	はるな二条	11.10	11.10	6	7	0
		小麦	農林61号	11.10	11.10	8	8	2

注) 1. 平年値は、過去3年間の平均値。以下同様。

表2 生育調査（水田農研 生育相調査）

品種		出芽期 (月日)	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	苗立率 (%)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期調査			倒伏 程度
							稈長	穂長	穂数	
							(cm)	(cm)	(本/m <sup>2</sup> )	
はるな二条	本年	11.17	118	90	4.4	5.20	101	4.9	720	1.2
	平年	11.19	138	94	4.5	5.20	88	4.9	668	
	平年比(差)	-2	86	96	-1	0	115	100	108	
農林61号	本年	11.17	181	92	4.18	6.10	103	8.0	652	5
	平年	11.21	172	87	4.19	6.12	94	8.1	553	
	平年比(差)	-4	105	106	-1	-2	109	98	118	

注) 種子千粒重及び播種粒数は品種によって異なる。

(参考)種子千粒重は、農林61号：40.8g、はるな二条：45.5g

表3 収量及び収量構成要素（水田農研 生育相調査）

品種		藁重	精子 実重	有効 穂数	1穂 粒数	m <sup>2</sup> 当 粒数	千粒重	1リットル 重	整粒 歩合
		(kg/a)	(kg/a)	(本/m <sup>2</sup> )	(粒)	(千粒)	(g)	(g)	(%)
はるな二条	本年	46.6	47.7	704	20.5	14.4	39.7	709	86
	平年	47.4	38.6	654	18.6	12.2	37.9	735	82
	平年比	98	123	108	110	119	105	96	104
農林61号	本年	59.7	60.8	643	27.1	17.4	36.9	799	100
	平年	55.6	48.3	521	23.1	12.0	40.4	814	100
	平年比	107	126	123	118	145	91	98	100

注)1リットル重はリットル枘による。

精粒歩合は、はるな二条は2.5mm篩選、農林61号は2.0mm篩選による。

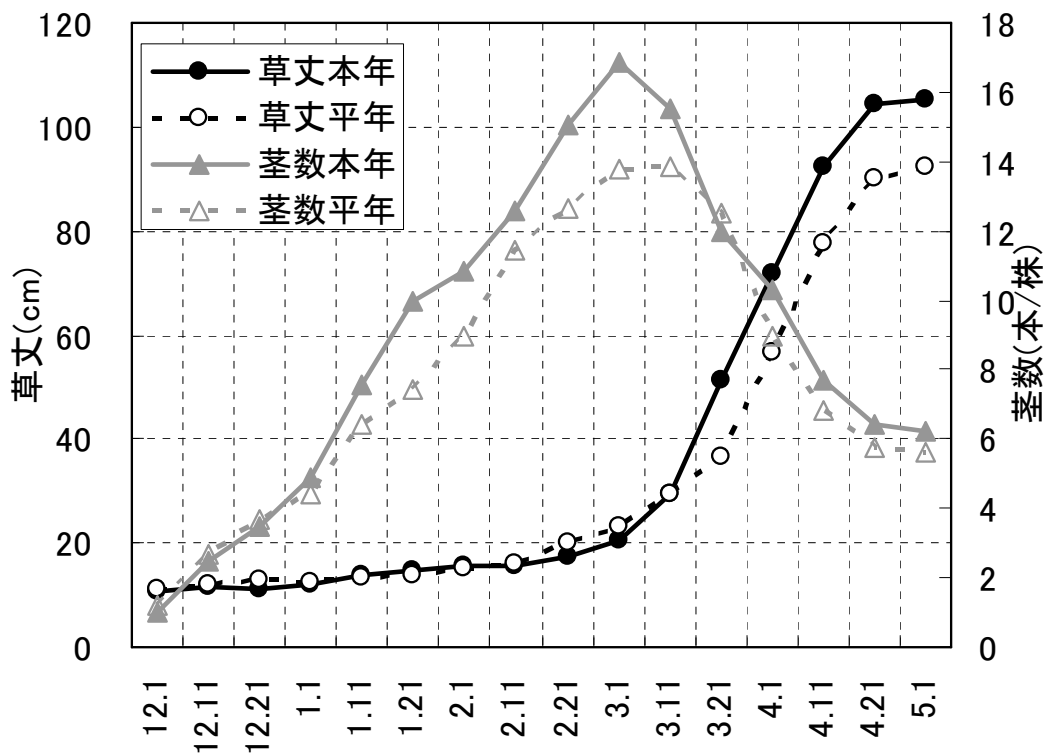


図1 19年度(20年産)はるな二条の生育経過(水田農研 生育相調査)

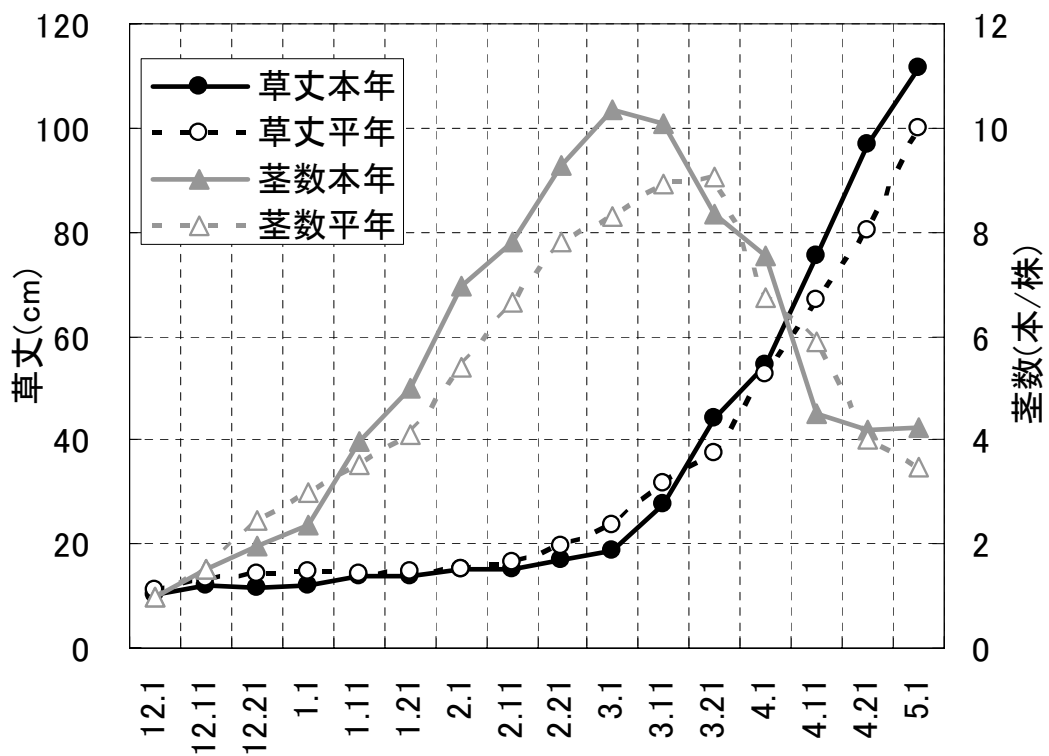


図2 19年度(20年産)農林61号の生育経過(水田農研 生育相調査)

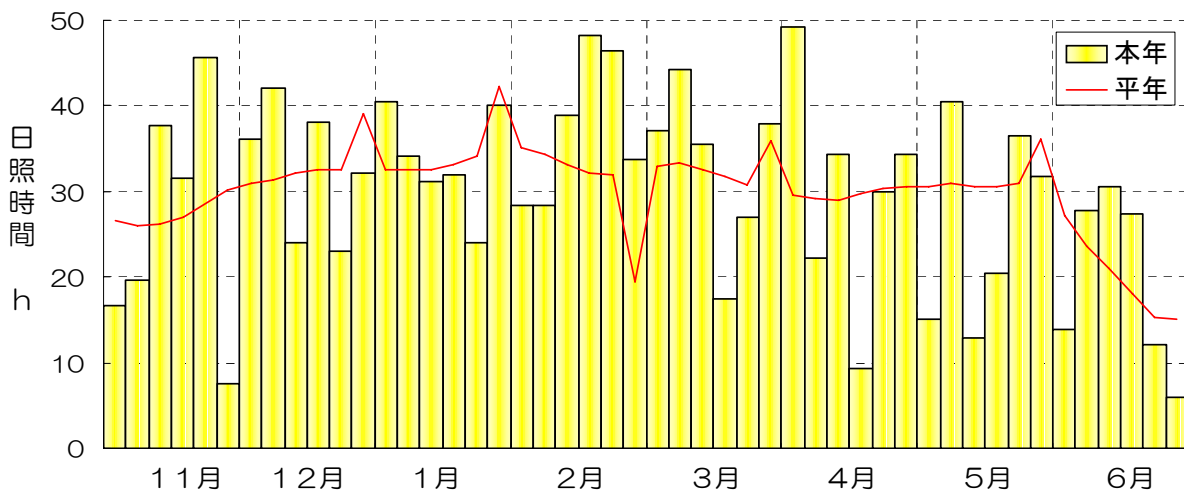
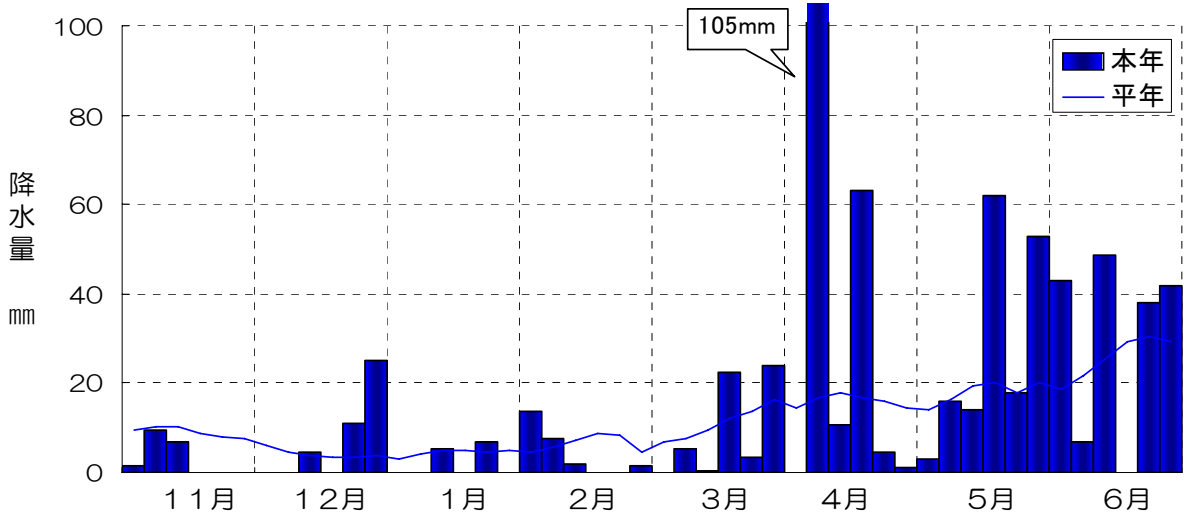
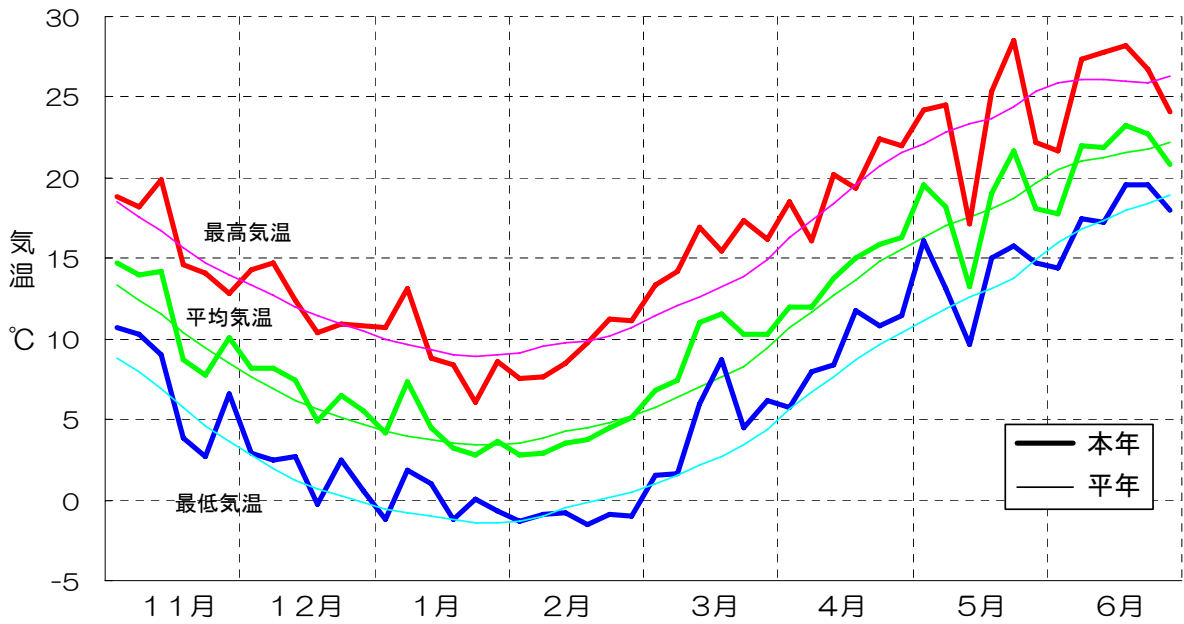


図3 平成19年度（20年産）冬作期間気象図（熊谷地方気象台データ）